

平成 31 年 4 月 26 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03761

研究課題名(和文) 大学入試多様化に対応した入試業務専門職化の可能性検証と養成プログラム開発

研究課題名(英文) Developing Training Program for Admission officers

研究代表者

夏目 達也 (Natsume, Tatsuya)

名古屋大学・高等教育研究センター・教授

研究者番号：10281859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、高大接続・入試の専門職設置の可能性・必要性を検証すること、同専門職を養成するためのプログラムを開発することである。

本研究で以下の知見を得た。大学入試は推薦入試やAO入試による入学者比率が増加し、一般選抜でも改革が進んでいる。これらの事態に対処するには、高度な知識/スキルを有する専門職の設置が求められており、各大学で実際に設置が進んでいる。同専門職の職務内容は大学により多様であり、必ずしも共通していない。入試業務は多岐にわたり専門職だけで実施できず一般教員との連携・協力が不可欠である。入試業務の効果的な実施には研修が必要であり、専門職と一般教員双方の受講が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学では推薦入試やAO入試による入学者比率が増加、一般選抜の改革が進んでいる。これらの事態への対処には高度な知識・スキルを有する専門職の設置が求められている。しかし、従来の調査・研究では、彼らの業務内容、勤務実態、専門性形成の初期教育や継続教育の内容は必ずしも明らかにされてこなかった。本研究の意義は、以下の点にある。上記の実態をふまえて、全国の主要大学のアドミッション部門に勤務する専門教職員を対象に聞き取り調査およびアンケート調査を実施したこと、これを通じて把握した教職員のニーズに対応した養成プログラムの内容を検討し、助成期間中にセミナーを11回開催し参加者にプログラムを提供したこと。

研究成果の概要(英文)：This study examines if it is possible to employ the personnel specialized (Admissions officers) for the organizing the entrance examination and articulation between high schools and universities. It also develops the training programs for specialized personnel. It brought the findings as follows. 1) Many universities want admissions officers who have specialized knowledge and skills. Because they have to introduce new methods of entrance examination to adapt the changes of high school students' academic knowledge and skills. 2) National universities established admission centers and recruited admissions officers using the Government subsidy. 3) It is necessary to realize the collaboration among admissions officers as well as faculty members, because there are a lot of works of entrance examination and activities for the articulation between high schools and universities. 4) Training programs should be organized for admissions officers as well as faculty members to enhance their activities.

研究分野：教育学

キーワード：入試専門職 アドミッション・オフィサー 大学入試 大学入試改革 高大接続 専門職養成 専門職養成プログラム

1．研究開始当初の背景

高校と大学の接続関係は多様な形態・方法・内容があり得るが、日本では歴史的に入学選抜、とくに学力に基づいて行う入学試験の占める位置が大きい。大学進学率が上昇し、学生の学力や勉強目的が多様化する中で、より適切な学生を選抜するために、近年、入試方法が多様化している。推薦入試やアドミッション入試（AO入試）等はその一例である。学生の多様化とともに入学選抜方法の多様化は、今後さらに追求される可能性がある。大学では、一般に大学入試にともなう各種業務の多くは教員の仕事と考えられてきたが、多様化が進む中で、教員だけでは対応が難しくなっていることが指摘されている。入試問題の作題・管理、受験者の高校時代の成績・諸経験等の評価、入試方法改編の企画・実行等についての専門的な知識・スキルを備えた専門の教職員を置くことが必要との認識が高まりつつある。現時点においては専門の教職員を置く大学はきわめて限られているが、大学入試改革が政策的に推進される中で、新たな入試方法に対応して専門の部署と教職員を配置する大学が増えている。

ただし、専門の教職員に必要な知識・スキル・その他の能力が具体的にどのようなものか、それをどの機関がいかに育成するか、彼らの処遇をどうするか等は、十分に検討されているとは言えない。本研究ではこの課題に取り組むこととした。

2．研究の目的

入試改革に伴う入試・高大接続業務の高度化・多様化に対応するための方策として、入試担当専門職（アドミッション・オフィサー）の設置が考えられる。本研究の目的は、同専門職設置の可能性・必要性を検証すること、同専門職の養成のプログラムを開発することである。

目的を達成するため、以下の課題を設定し取り組んだ。

主要大学における入試・高大接続業務、当該職員の職務遂行能力に関する調査

当該専門職員のリクルート方法、採用後のキャリア形成等のあり方の検討

当該専門職員の能力開発の制度・プログラム等のあり方の検討

入試担当専門職員を設置・養成の先進事例をもつ諸外国との比較研究

3．研究の方法

上記の目的を達成するために、以下の方法により研究を行った。

上記課題 と について、主要国立大学のアドミッション関連部署所属の教員6名を対象に、インタビュー調査を実施した。対象者の選択にあたっては、アドミッション部署所属教員として一定期間の勤務実績があること、活動実績があることを考慮した。所属大学についても、総合大学と単科大学、大規模大学と比較的小規模というように、大学の特性を考慮した。

上記課題 については、アドミッション部署所属教員に関するインタビューを通じて、同教員が職務を遂行する上で必要不可欠な知識・スキル、その他の能力について把握した。その結果をふまえ、彼ら自身や関連の研究者を講師として招聘し、職務に必要な知識・スキル等を提供するセミナーを開催した。プログラムの内容の改善・充実に向け、セミナー参加者の意見を聴取し、その結果をふまえてセミナーの内容や実施形態について検討を加えた。

上記課題 については、フランスにて、大学や高校等で生徒・学生の進路選択の指導に当たっている、「進路指導/心理相談員」を中心にインタビューを行った。

4. 研究成果

4.1 アドミッション担当教員の仕事とキャリア

主要国立大学のアドミッション関連部署所属教員6名に対する聞き取り調査から得られた知見は、以下のとおりである。第一に、アドミッション関連部署で入試改革を担う教員の経歴と職務内容の多様性である。同部署の職務内容については大枠としての共通点を見出すことはできるものの、その内容としてどの業務に重点を置くかは、調査対象者の経歴や所属大学の抱える課題により大きく異なる。アドミッション担当教員の経歴と職務の多様性は、入試業務に専門的に携わる人材を個別大学の同部署に配置すること自体、まだ日本では歴史が浅いこと、今回の調査対象者が日本の同部署の黎明期からの業務を担ってきた先駆者としての存在であることが関係していると推察される。今後、アドミッション担当教員が集団としての社会的認知を得るには、彼らの先駆者としての経験がアドミッション業務を進めるための専門的な知識や技術として体系化され、学会、大学院などの教育課程、研修、ないし資格制度により後継者に伝達されていく必要がある。他方、アドミッション担当教員の出自の広さや所属大学の課題に応じた柔軟な業務上の対応は、アドミッション担当教員の集団が活力を維持するための源泉になりうるだろう。アドミッション担当教員が、継続的に職能開発を進めていくための基盤整備についても、現状におけるアドミッション担当教員の多様性を踏まえたいうで進めていくことが肝要と考えられる。

第二に、アドミッション担当教員における職務の継続性が低いことが、調査対象者の多くによって課題として挙げられた。同教員の職務に継続性をもたせるための方策については、調査対象者間で異なる意見が見出された。同教員の役割は、複数の事由により不安定となりやすい。任期付き雇用が多いこと、前例のない職種であり評価基準が定まっていないこと、採用時点で大学側が必要な業務内容を認識していないこと、全学的改革に関わる部署であるがゆえに執行部の交代で業務内容や評価基準が大きく変わること、大学によっては担当者が1名のみであり経験の伝達が困難であること等々である。任期付き雇用の解消については、絶対的に必要という意見と任期付き雇用で大学間移動することが必要という意見の、異なる見解が得られた。大学内でキャリア継続を志向するにしろ、大学横断のキャリアを志向するにしろ、アドミッション担当教員が長期的見通しをもち業務を担当するための基盤を求めるという意味では、調査対象者は同一課題を指摘していたと考えられる。

第三に、研究活動と教育活動への関与の必要性を調査対象者全員が指摘した。多くの場合、活動関与がアドミッション業務を進めるうえで有効との意見が得られた。大学教員の当然の役割として、教育と研究を担う意義を捉える立場もある。アドミッション担当教員のキャリア形成において、教育と研究に関わる機会の確保が、アドミッション担当の専門家としての職能向上の面でも、大学教員のアイデンティティとアドミッション業務との有機的連携の面でも、重要課題であることを示唆している。大学教員としてのアドミッション担当者の能力や立場を十分活用するために、アドミッション業務の特性を理解のうえで教育・研究活動への関与機会を確保すること、アドミッション業務と教育・研究活動との間での適正な業務量を把握すること、及び、アドミッション担当教員の役割に即した評価基準や雇用・昇進制度を整備することが、雇用する大学の側に求められる課題である。

4.2 アドミッション担当教員調査のまとめ

本研究では、国立大学のアドミッション担当教員を対象に、仕事とキャリアについての聞き

取り調査を実施した。調査から得られた知見の第一は、経歴と職務の多様性である。第二に、職務の継続性・安定性の低さを、多くの対象者が課題として指摘していた。第三に、すべての対象者において、研究と教育を担うことの意義についての言及があった。上記の知見より、アドミッション担当教員の継続的な職能成長を支えるためには、秘匿性の高い情報を扱うというアドミッション担当教員の業務内容ないし研究活動の特殊性を考慮したうえで、多様な職務経験や研究成果を共有する場を確保すること、キャリアパスと職務の継続性を確立すること、及び、役割に即した評価基準や雇用・昇進制度を整備することが必要であるとの示唆が得られた。

アドミッション担当教員の多様性や、職務の継続性に関わる問題は、アドミッション担当教員が、従来型の学部・研究科に所属する大学教員に比べ、新しいタイプの役割を引き受ける専門家であることに由来すると考えられる。同時に、アドミッション担当教員もまた、教育と研究の双方への関わりという、伝統的な大学教員の役割を重要視しており、かつ、そのことがアドミッション業務にもたらす影響を肯定的にとらえていたことは、本研究の調査結果のなかでも特筆すべき点であろう。新しい専門家集団としてのアドミッション担当教員のキャリアパスを確立する上では、入試業務の専門家としても、大学教員としての役割を担う者としても、教育・研究活動に関わる機会の確保が重要であることを示唆する結果である。同時に、アドミッション担当教員の教育・研究活動の成果については、アドミッションに関わる業務量とのバランスや、特殊な情報を扱うが故に成果発表の場が限られるという入試研究の特性に考慮したうえで、適正な評価基準を整備することが、重要な課題であるといえるだろう。

4.3 フランスの高大接続担当職員の専門性に関する考察

フランスで高大接続関係の業務を担う専門職である「進路指導相談員」(Conseiller d'orientation-psychologue、以下 COP と略)について、職の安定化と専門性の確保をめぐる国との攻防に関して当該職の団体が展開した活動の概要とその主な結果を明らかにした。これを通じて、進路指導専門職の専門性の具体的内容やその存立条件について検討した。

COP は公務員としての地位を得ているが、そのことは専門職としての地位安定が保障されていることを必ずしも意味しない。むしろ実態としては不安定な状況に置かれている。とくに近年は、その傾向が顕著である。COP の職そのものの存続を、雇用主たる国、具体的には国民教育省が見直す動きが顕在化している。専門職としての活動が制約されたり、さらに専門職としての存続が危うくなる事態も出ている。本研究では、COP 職の見直しの動きが起きている背景や、それに対する専門職としての地位・処遇を保持するために COP の側が展開している活動について検討した。その活動は、専門職としての雇用、とくに専門性の確保をめぐる攻防としてとらえることができる。この攻防の展開過程の分析を通じて、進路指導関係専門職の存続のための条件がいかなるものであるのか、どのような課題をクリアすることが求められているのか、について検討した。

COP は、国家公務員という身分は明確であるものの、その職務内容が明確に法令等で規定されておらず、職としての安定性を欠く側面があった。職員数が少なく、彼らの職務の種類・量からみて極めて不十分であるり、専門職の役割遂行・組織への貢献を通じて存在を認知させることが難しい。政府の方針次第では、専門職としての処遇が保障されない可能性がある。COP の専門団体はその点を自覚しており、職の安定化を図るために、多様な策を講じてきた。

同団体が政府との間で合意に達したのは、学校心理専門員(PS)との職団の統合である。これにより、全体としての職員数が増加した。職務内容についても、従来は法的に規定のない状

態が続いていたが、法令により明確に規定され、職としての安定性を確保することができた。ただし、職務内容が幅広く設定されたことにより、本来の専門にかかわる職務である、生徒・学生の進路選択に関する相談業務への専念が難しくなった側面は看過できない。専門職務への専念は専門職としての活動の前提であり、専門職の存立基盤そのものである。それが阻害されること、少なくともその可能性を生じさせたことは、専門職団体としての判断として妥当であったかどうか疑問が残る。専門職の専門性確保と職の安定化の微妙なバランスを追求せざるを得ない立場であるが、国民教育省との間で後者を優先させたと判断できる。

専門職が一定程度の専門的知識・技能を持つ職業集団として、その存在と役割・貢献を社会的に認知され、存在が認識されるかは、今回の措置で獲得した条件をいかに活用して、活動を展開できるかどうかにかかっている。専門職としての基本的使命は何か、専門的な知識・技能は専門職としての存立基盤の重要構成要素であるが、それをつねに高めることが必要である。そのための不断の努力を専門職の個人としても団体としても追求することが必要である。これらの努力を怠れば、その存立基盤はにわかに危うくなることを、フランスの事例は教えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

・夏目達也「フランスにおける進路指導専門職の専門性をめぐる攻防」、『名古屋高等教育研究』第19号、査読有、pp.115-137、2019年3月。

・中島英博「高校教員から見た大学による高校訪問」、『名古屋高等教育研究』第19号、査読有、pp.99-114、2019年3月。

・丸山和昭・齋藤 芳子・夏目達也「アドミッションセンターにおける大学教員の仕事とキャリア - 国立大学の教員に対する聞き取り調査の結果から - 」、『名古屋高等教育研究』第19号、査読無、pp.335-348、2019年3月。

・夏目達也「フランスの大学における 高大接続の取組と教育改革」、『名古屋高等教育研究』第18号、査読有、pp.89-115、2018年3月。

・林 篤裕「アドミッション・オフィスの機能と役割 - 多面的・総合的評価を実現するために」、『名古屋高等教育研究』第18号、査読無、pp.39-53、2018年3月。

〔学会発表〕(計4件)

・夏目達也「フランスにおける進路指導専門職の専門性をめぐる攻防」日本教育学会第77回大会、宮城教育大学、2018年8月31日

・夏目達也「フランスの大学における職業教育拡充政策の現状」日本産業教育学会第59回大会、横浜国立大学、2018年10月21日

・夏目達也「フランスにおける高大接続と大学教育の改革」フランス教育学会第36回大会、2017年9月8日、筑波大学東京キャンパス

・夏目達也「フランスの大学における継続教育」、日本産業教育学会58回大会、2017年9月22日、大阪工業大学

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：大塚雄作

ローマ字氏名：Otsuka Yusaku

所属研究機関名：大学入試センター

部局名：研究開発部

職名：客員教授

研究者番号(8桁): 00160549
研究分担者氏名: 林 篤裕
ローマ字氏名: Hayashi Atsuhiro
所属研究機関名: 名古屋工業大学
部局名: 大学院工学研究科
職名: 教授

研究者番号(8桁): 70189637
研究分担者氏名: 吉永契一郎
ローマ字氏名: Keiichiro Yoshinaga
所属研究機関名: 金沢大学
部局名: 国際基幹教育院

職名: 教授
研究者番号(8桁): 70313492
研究分担者氏名: 中島英博
ローマ字氏名: Nakajima hidehiro
所属研究機関名: 名古屋大学
部局名: 高等教育研究センター

職名: 准教授
研究者番号(8桁): 20345862
研究分担者氏名: 丸山和昭
ローマ字氏名: Maruyama Kazuak
所属研究機関名: 名古屋大学
部局名: 高等教育研究センター

職名: 准教授
研究者番号(8桁): 20582886
研究分担者氏名: 齋藤芳子
ローマ字氏名: Saitoh Yoshiko
所属研究機関名: 名古屋大学
部局名: 高等教育研究センター

職名: 助教
研究者番号(8桁): 90344077